

柏若葉（寿祝柏若葉）

春告げし

初音の鳥もいつかおひ
接樹の梅は日の影と
雨露の恵みに青葉して
茂る梢の花やしき

柏も古く常磐木の

松を友なるむつみぎに
齡寿く名にちなむ
槐も花の咲く頃と

子にゆづり葉や幾千代と
かけし願ひの今年竹
青きをわぶる一節に

若葉は同じ桐の花

その蝉桐もゆかりとて
せみの羽衣ぬぎかへて
はれな紋日の薄羽織
着初めに富士も白雪の
とけて嬉しき衣がえ

峰もはるかに紫の

雲かと眼にも筑波根は

あつ着となりて茂る山
西と北とに一对の
はでな姿を宮戸川

上手へのぼる汐時も

よしや葭戸と変る瀬に
清きを流す障子船

風になびくか夏柳の

糸の音じめの床しさに
ひかり涼しくさす月を

三ツ瓢たんの連れ弾に

浮いた調子の賑はしや
実に栄ゆく家の名も

延るを継ぎて万代も

つきぬ流れの末広き
富貴を仰ぐことの葉を

拙き筆に祝ふらん。